

すべての決裁権は校長にあり

すべてを校長が判断するということ？

2019.05.22

No.70

校長 渡邊 幸二

「すべては校長が決済する」

私が若い頃は全く意識していないことでしたが、歳を重ね、最近になってようやくその意味がわかってきたように思います。こういう教育活動をやっていいかどうか、こんな報告でいいかどうか…全てのことを報告しなさいと、そして「**全て最終判断は校長である私がするのだ**」と言われることがありました。それが先生を守るためであるのだとも言われました。中にはこのことをとても強調する校長先生もおられました。守られていてありがたいようで、一方でとても萎縮してしまっている自分がいるようで……

あなたは「ラストマン」～責任はトップが取る

昨日、教員になってからの恩師である庄内教育事務所のエリアスクールソーシャルワーカーE.K氏が来校してくださいました。お話をする中で、5月17日に宮城県名取市で起こった特別支援学校生の死亡事案に話が及びました。結論は、

もっと119番通報が早かったら助かった命だった！

ということでした。

本校でも自然教室や校外学習が多く行われています。もし、子どもの誰かが熱中症やアレルギー症状などで脈が弱くなった、意識が朦朧となったなどの危険な状況に陥ったとしたら、現場の最前線にいるあなたはどうしますか？遠い本校にいる管理職の判断を仰いでから119番通報しますか？



浜田小学校の危機管理マニュアルには火災や地震などの対応しか載っておらず、校外学習時の危機についてはその都度の起案で考えるようになっていきます。自然教室には大概近くに管理職がいますので対応は可能ですが、ちょっとした校外学習には同行しません。となると、一刻を争う場合の対応は現場教師に委ねられることになります。その時に、遠くにいる管理職にいちいち電話で判断を仰いでいては、どうしても119番通報が1分2分と遅れていきます。心配停止後、1分遅れると蘇生率は10%下がると言われています。目の前で倒れているのが我が子だとしたら……。

もう一度問います。そんな時、みなさんならどうしますか？

私は、以前からお話している通り、大枠で伝えてある方針(安全・安心が最優先ということ。学校経営方針など)と同じ方向であると思えるなら、**最終判断者は「あなた」**でけっこうです。あなたがラストマンとして決断し、行動してください。その責任をあなたに押し付けることなど決してしません。**組織のトップである私が最終責任者**です。私は「**すべての決裁権は校長にあり**」という意味をそう理解しています。

だいたい先生方すべての判断に、校長が首を突っ込むなんていうことはできません。ちなみに先生方の仕事について法律では「**教諭は、児童の教育をつかさどる**」と

規定されています(学校教育法第37条)。これは、先生が授業などの教育活動全般について自分の仕事として処理することを意味します。つまり、先生自身が主体的に思考・判断して業務を遂行していくことと理解されます(もちろん学習指導要領等の基準を重視したり法令に従ったりすることは大前提として)。校長としての私の仕事は、先生方が「主体的に思考・判断して業務を遂行していく」上での**大枠としての方針を明確にすること**、そして単に伝えただけでなくそれが先生方の教育実践としてまで表れるようにすることだと思っています。部下が校長の考えている方針通りに動いていないとしたら私の伝え方が悪いのであって、いつまでも信頼されていない自分が不甲斐ないと思っています。今の浜田小学校の先生方は、そういう意味でマインドセットがしっかりなされているように思います。ですから、万が一、**子どもがそんな命の危機に遭遇したときは、最悪を想定した行動を速やかにとってください**。子どもの命が第一です。結果として救急車を呼ぶような事故ではないとしても、それはたまたまであって、その判断が間違っていたということではないのです。



これからの学校も、子どもも、先生も

最終的に決めた人にその責任を負わせるのがその組織の掟だとしたら、おそらく早晚、その組織は終わりを告げるでしょう。**組織が生成発展していくには、どうしても新機軸を打ち出していかなくてはなりません**。そうでないと停滞や劣化が始まるからです。以前の校長室だよりで紹介しましたが、スタバのメインメニュー(マキアートなど)は、最高責任者の発案ではなく、ある執行役員のアイデアで生まれたものです。新しいアイデアやたくさんの個からの提案・ボトムアップが許されない組織は決して生き残れないと思うのです。

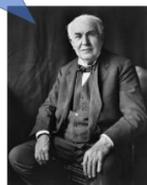
もし、みなさんが「自分で決めて行動してって言われても…」という思いから思考や行動が制限されているとしたら、そろそろそんな古い考えを止めないと、あなた自身が学校教育という流れにおいてけぼりになる可能性があります。これからの学校は、先生ご自身がしっかりとした考えを持ちながら、もっと積極的に組織に貢献していくような活動を求められるようになると思います。校長という一人の考えで学校がうまく機能するような、そんな単純な仕事・組織ではなくなっているからです。そして、そういう自ら

考え、主体的に行動したり対話したりしながら課題解決を図るというのは、まさしく今私たちが子どもたちに求めている姿「**主体的・対話的で深い学び**」に他なりません。子どもには求めるけど指導者である教師自身はそれをやらない・できないでは、これからの教育が立ち行かないことはお分かりでしょうか。

トーマス・エジソン **失敗は成功のもと**

私は失敗したことがない。

ただ、1万通りの、
うまく行かない方法を
見つけただけだ。



成功に近づいていく
←
うまくいかない(失敗)

もう一度言います。**先生方は老若男女問わず「ラストマン」です**。現場の最前線にいて、常に子どもたちの安全・安心を守り、そしてこれからの世の中を切り抜ける力が付くよう導く先達者であります。先生方の「**一歩**」を期待しております。